

科目名称: 幼児と言葉					
担当者名: 岡部 智子					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	1年前期	講義	必修	2	子ども福祉学科(3)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施無し		ナンバリング		24107240
授業概要: 幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を学ぶ。					
到達目標: 人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする実践を学ぶ。また、言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財についても理解する。					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
第1回 人間にとっての言葉の意義と機能			乳幼児が発する言葉や特徴について関心を持っておく(60)		
第2回 子どもの言葉の発達過程(1)言葉の誕生			乳児期の言葉の発達過程について下調べをする(60)		
第3回 子どもの言葉の発達過程(2)書き言葉の習得			幼児期の言葉の発達過程について下調べをする(60)		
第4回 DVDを活用し、言葉の発達過程の理解する			前回授業範囲の復習(60)		
第5回 言葉の美しさ、楽しさ			乳幼児が発する言葉や特徴について下調べをする(60)		
第6回 言葉に対する感覚を豊かにする実践			乳幼児が発する言葉や特徴について下調べをする(60)		
第7回 言葉遊び			言葉遊びについて下調べをする(60)		
第8回 言葉を豊かにする実践と幼児の発達			幼児の発達に合った言葉遊びについて調べ、発表できるように準備しておく(60)		
第9回 子どもにとっての児童文化財の意義			児童文化財について下調べをする(60)		
第10回 児童文化財の種類と歴史			児童文化財について下調べをする(60)		
第11回 児童文化財の実際			児童文化財について種類ごとにレポートにまとめる。(60)		
第12回 DVDを活用し、児童文化財の保育実践での展開を理解する			前回授業で提示された課題に取り組む(60)		
第13回 模擬保育の計画・準備			発表に向けてグループ毎にしっかりと準備を進めておく(60)		
第14回 模擬保育			発表に向けてグループ毎によく練習しておく(60)		
第15回 まとめ			これまでの学習内容を見直し、しっかり復讐しておく(60)		
履修に必要な予備知識や技能: 乳幼児が発する言葉やつづやきに関心を持ち、日頃から児童文化財に触れ、技術向上に努めること。					
課題に対してのフィードバック: 授業で提出した演習課題の成果物やワークシートについては、点検・添削された後、次回以降の授業で返却し、講評する。					
評価方法・基準: 定期試験 60%、受講態度(授業への参加度) 40%					
教科書: 「幼稚園教育要領」文部科学省、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」内閣府、文部科学省、厚生労働省、「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)					
備考: 参考文献として、『実践につなぐ ことばと保育』改定2版 近藤幹生他(ひとなる書房)を使用する。					
実務経験の内容・期間: 幼稚園教諭(22年)					